

## 令和3年度 学校運営連絡協議会実施報告書

### 1 組織

- (1) 東京都立農業高等学校 学校運営連絡協議会（定時制課程）
- (2) 事務局の構成 主幹教諭(教務担当)=事務局長、教務部員3名 計4名
- (3) 内部委員の構成  
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭(教務担当)、生活指導主任、進路指導主任、農場主任 計7名
- (4) 協議委員の構成  
近隣中学校長、近隣職業安定所所長、近隣警察係長、地域保護司、近隣自治会長、卒業生、EPTA 会長 計7名

### 2 令和3年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 新型コロナウイルス感染症予防のため、令和3年度の学校運営連絡協議会は開催していない。

### 3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

#### (1) 学校評価の観点

「学校への理解」「学校の意識」「学校の実践」の観点で実施する。

#### (2) アンケートの実施時期・対象・規模

12月	全校生徒	91名	回答数	80名	回収率	88%
12月	保護者	91名	回答数	26名	回収率	28%
12月	教職員	18名	回答数	18名	回収率	100%

コロナ禍で、地域住民へのアンケートは実施しなかった。

#### (3) 主な評価項目

##### A 生徒対象

学校全般、授業内容、生活指導、進路指導、教育相談、満足度

アンケート項目10項目

##### B 教職員・保護者対象

学校全般、授業内容、生活指導、進路指導、教育相談、働き方改革、満足度

アンケート項目11項目

##### C 地域住民

学校全般、地域とのつながり、授業内容、生活指導、安全教育、働き方改革、学校施設

アンケート項目11項目

#### (4) 評価結果の概要

##### A. 生徒による評価

###### (ア) 学校全般

「本校は他校にはない特色がある」では、73%の肯定的評価があることが分かった。「学校生活は充実している」では、68%が肯定的評価していることが分かった。

しかし、32%の生徒が学校生活に満足しておらず、新型コロナウイルス感染症の影響で、分散登校や短縮授業となり、学校行事の中止、部活動の中止など、制限の多い学校生活を送っていることが原因であると考えられる。

###### (イ) 授業

基礎学力が身につけていないまま本校へ入学してきた生徒の中には、発達障害や学習障害の傾向にある生徒も少なくない。基礎学力の向上を学校経営計画に掲げ、数学に関しては、クラスを習熟度別少人数に分け、生徒の実態に即した学習形態をとってきた。

このような授業形態の工夫に合わせて、「教材や教え方に工夫がある」「授業では一人一人を大切にしている」という安心感が肯定的評価につながっていると推察する。ただし、20%の生徒が満足しておらず、分散登校や短縮授業による影響が出ていると考えられる。

###### (ウ) 生活指導

本校では、「あいさつをする」「ルールを守る」「時間を守る」の3つの生活目標を設定し、社会性や規範意識の向上に努めている。特に社会参加や自立に向けた若者の健全育成は、本校に限らずとも重要である。今年度も近隣からの苦情はまったくない。この落ち着いた学習環境の維持には、全教員が生徒と正面から話し合い、向き合っていくことが日知用である。

「学校行事の活動は活発である」は、新型コロナウイルス感染症の予防の取り組みを含め、68%の肯定的評価を得た。

###### (エ) 進路指導

「適性或希望などを生かした進路指導である」では、70%の肯定的評価を得た。本校では、学校経営計画にキャリア教育の推進を掲げており、生徒へは計画的に就労や進学への意識を向上させている。また、学年と進路指導部が組織的に指導を展開し、ハローワークをはじめとし、進路情報会社と段階を踏んで進路行事等を行っている。市役所の就労部門やハローワークの外国人の相談窓口とも連携し就労に結び付けるように努力している。今年度は、就職希望者7名を内定させたが、アルバイト継続の生徒も6名となった。

#### (オ) 教育相談

「悩み(いじめを含む)」に係る相談は適切である」では63%の肯定的評価を得られた。本校では教育相談委員会を年間12回開催している。定期的にスクールカウンセラーも含めた特別支援教育コーディネータ(担任含む)、生活指導部主任たちで情報交換を行い、適切な指導方法を決めている。場合によっては、役所の福祉部門の担当者や子ども家庭支援センター、児童相談所等とケース会議を行い大きな成果をあげてきた。

令和元年度より、ユースソーシャルワーカーが継続派遣され、第4の相談窓口として機能している。

#### (カ) 学校満足度

「本校に入学してよかった」では全体の76%が本校入学を肯定的評価していることが分かった。学校全般同様に引き続き肯定的評価が増えるように努力すべきである。

### B. 保護者による評価

#### (ア) 学校全般

「他校にはない特色がある」では88%と高い肯定的評価であった。生徒の「学校生活が充実している」では、80%であり、高い肯定的評価になった。生徒自らが学校生活を楽しんでいる様子を保護者に伝えることで、このような高い肯定的評価になっていると推察する。

#### (イ) 授業

「授業に満足している」では、80%の肯定的評価を得られた。「一人一人を大切に授業が展開されている」では、91%となり、高い肯定的評価を得られた。生徒から伝えられることや授業公開を通じて、授業の様子を知っていたらいる結果であると推察する。

#### (ウ) 生活指導

「社会の規範や市民道徳を守る意識を育てている」では、88%となり、高い肯定的評価を得られた。「あいさつや身だしなみ頭髪等、厳しい指導が行われている」では、68%の肯定的評価になった。全体的に本校の生活指導は保護者に肯定的評価をいただいていると感じた。

「学校行事」は、52%の肯定的評価となり、コロナ以前から20%減少した。新型コロナウイルス感染症の影響が続く中で、感染症対策を講じながらも学校行事を段階的に実施してきたが、修学旅行や遠足など、大きな行事が中止になった影響であると考えられる。

#### (エ) 進路指導

本校では、計画的なキャリア教育の中で学年と進路指導部が組織的に指導を展開してきている。担任のきめの細かい面接指導により、個々の適性や希望を十二分にくみ取り、進路指導部による進路説明会や個別の指導が行われている。このことが肯定的評価78%となっているのではないかと推察する。

#### (オ) 教育相談

「子供の悩みに係る相談に適切に対処している」では、82%の高い肯定的評価をいただいた。これは、担任をはじめ養護教諭、生活指導部などあらゆる場面で生徒に向き合い、耳を傾けていることが、保護者に伝わっているからだと推察する。また、本校では教育相談委員会を定期的に開催し、情報交換を密にし、組織的に指導を行ってきている。

#### (カ) 働き方改革

57%と昨年度よりも肯定的な意見が10%増加した。こちらも、新型コロナウイルス感染症の影響で、飲食店などの経済的な影響が大きかったが、少しずつ回復の兆しが見える結果であった。

#### (キ) 学校満足度

「本校に入学させてよかった」では、生徒の結果を大きく上回り、100%の肯定的評価となった。特筆すべきは、「そう思う」で91%と、この項目で、昨年度よりも13%も増加したことである。

### C. 教職員による評価

#### (ア) 学校全般

学校の雰囲気は落ち着いた学習環境が維持されており、学校生活全般を居心地の良い場所となるように日々努力する姿がうかがえる。そのため、肯定的評価になっていると考える。

#### (イ) 授業

教育目標である「基礎基本と確かな学力を身に付ける」の実現に向けて、各教員が生徒への寄り添い方、丁寧な指導を工夫し努力している姿を見ている。2項目とも95%以上の肯定的評価となっている。

現在、各教室にプロジェクターが設置されている関係もあり、ICT機器やタブレット端末を活用した授業を展開する教員がかなり増えてきている。オンライン授業の実施も始まり、授業研究も進められている。

#### (ウ) 生活指導

本校では、「あいさつをする」「ルールを守る」「時間を守る」の3つの生活目標を設定している。新型コロナウイルス感染症予防のため、教員の輪番で玄関で検温しているので、挨拶や遅刻指導に全教員が関わったことが良い結果となっている。令和3年度は、特別指導に関する案件が1件もなく、非常に落ち着いた学習環境にある。引き続き担任と生活指導部が協力しながら、保護者と連携を深め、規範意識の向上や基本的な生活習慣の改善に努めなければならない。

#### (エ) 進路指導

進路指導については、新型コロナウイルス感染症の影響で、オンライン面接など、新しい形態の試験が実施された。その中でも、学年と進路指導部が組織的に進路行事を行っており、進路決定率は上がった。また、放課後や長期休業日も就職と進学ともに個別に指導を地道に行い、着実に成果を上げてきている。

#### (オ) 教育相談

本校では教育相談委員会が大変よく機能していることもあり、100%の肯定的評価となった。自他共に尊重し、生命を大切にする良好な人間関係を構築させる策として、スクールカウンセラーによる個人面談を第1学年の全生徒に実施している。この取り組みが、いじめの防止や自殺防止へ資すると確信している。しかし、分散登校や自宅学習により、オンラインで対応することが増え、取り組み方を工夫していかなければならない。また、スクールカウンセラーの相談日が週1日であるので、生徒の情報はこまめに情報交換し、共通理解を図らなければならない。

令和元年度より、ユースソーシャルワーカーが週1回程度派遣されるようになった。スクールカウンセラーとは違った視点や助言をいただき、外国籍の生徒の指導や発達検査の実施など、大きな効果があったと実感できた。

#### (カ) 働き方改革

83%が肯定的評価となった。新型コロナウイルス感染症の影響で、分散登校や自宅学習が増え、自宅勤務をする教職員が増えた。

#### (キ) 学校満足度

100%の肯定的評価となった。「そう思う」を増やすべきである。

- 4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）
  - (1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果
    - A 地域社会から見た生徒の様子 of 把握
    - B 防災教育の充実
    - C 公的機関や関連機関との連携
  - (2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかになった課題
    - A 地域社会への情報提供方法の工夫
    - B 学校行事等の見直し
- 5 学校運営協議会および学校評価を活用した教育活動の改善事項
  - (1) 学習指導
    - A 全生徒へ体験的な学習を行い、実学を取り入れ実施していく。
    - B 基礎学力の定着を図るために学び直しより深める。
    - C 資格取得を推進する。
    - D 学校ホームページの充実により情報発信を活性化し、地域・保護者とより一層連携を深め、共に生徒を育てること。
  - (2) 生活指導
    - A 規範意識を一層高める工夫を実施する。
    - B 体罰や言葉の暴力がない学校づくりを推進する。
    - C SNS を含めたインターネット・薬物についての講演会を実施する。
    - D 挨拶を習慣づける。
  - (3) 進路指導
    - A ハローワークや進路情報会社、役所の就労部門との連携を一層推進する。
    - B 1 学年より進路指導を計画的に実施していく
    - C 生徒の状況を各担任や進路指導部が理解し、進路指導を推進する。
  - (4) 健康・安全
    - A 倫理観を養うことを推進する。
    - B 自己肯定感を育成する。
    - C 教育相談委員会がリードして生徒の心を育む教育を充実させる。
  - (5) 特別活動
    - A 部活動加入率の増加。
    - B 農業クラブ活動やコンクールなどに生徒を参加させる。
    - C 奉仕活動をさらに推進する。

6 今年度までの協議委員の最終的評価と意見

(1) 協議委員人数 6人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数(実施せず)

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答

A 学習指導に関する意見（令和元年度以降まとめ）

先生方が授業で工夫していると思います。

わかりやすく指導していると思います。

意識調査からも好評価が出ている。

B 生活指導に関する意見

生徒の気持ちを理解し指導していると思います。

活動報告からも活動は充実している。

C 進路指導に関する意見

個々の生徒に合わせ進路指導をしていると思います。

生徒数は減少しているものの、きめ細かい指導がなされ、就職率も高い。

教職員全体で生徒のサポートをしている。担任、進路担当教諭は、早めに指導を実施し、高い内定率や合格率を出せたと思います。

進学・就職の進路指導がしっかりできている。

D 生徒の様子に関する意見

あいさがきちんとできていると思います。

生徒が落ち着いてきて、挨拶もきちんとできている。

E 教職員の取組について

先生方がいろいろ工夫して取り組んでいる。

学校全体で協力しあい、生徒と向き合う努力をしている。

担任の先生が同行し、利用方法、アルバイトを探すなど生徒一人ずつに行っている。

進路決定者からも教職員のご苦勞が評価できる。

F 学校評価アンケートについて

回収率を向上させる取り組みが必要である。

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績

実績 職員会議および企画調整会議 参加実績 なし

8 その他

(1) 学校運営連絡協議会の中で協議委員の意見をできるだけ多く出してもらえようように時間の確保を検討する。

(2) ホームページを利用した情報発信を工夫していく。